

11月えんだより

2017年11月1日

2017年度年間聖句：

「あなたがたは神に愛されている子どもです」

エフェソの信徒への手紙 5章 1節

11月聖句：

「わたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」

マタイによる福音書 18章 20節

10月は運動会にカーニバル、大きな行事の中で、保育園の普段の生活では見られない子どもたちの様子、また普段は送り迎えの中でしか、お会いしお話することができないおうちの方々とまた違った場面でお話や表情、お子さんとのかかわる姿を見ることができ、私たちにとってもうれしい時間となりました。保育園では、保育参加や懇談会、また懇話会などいろいろな機会を設けていますが、やはりおうちの方とお話したり、園とは違う場面でのお子さんとのかかわりを見させていただいたりすると、私たちの子どもへのかかわりを見直し、より子どもの育ちに合った場となる機会となっています。またおうちの方々にとっても、園とだけでなく、おうちの方とおしのつながりも強まる機会となればと思っています。「みつかる。つながる。よくなっていく。」というのがこれからの日本のYMCAのコンセプトですが、おうちの方々にとっても、YMCAの保育園がそうした場所であればと考えています。

さて、先月の園だよりの冒頭には「いい気候となりました」との書き出しから10月の行事に触れましたが、何の因果か、運動会も、そしてカーニバルも、あいにくの天気でした。ましてやカーニバルは開催も危ぶむ中で、最後の最後まで開催するべきかどうか悩みました。保育園開園して以来、運動会もカーニバルも（ましてや近年、10月にあんなに大きな台風が来るなんてことも）天候に悩んだことはなかったです。運動会は前日の天気予報では回復に向かっていくはずだと信じ、当日朝まで晴の準備もしながら迎えましたし、カーニバルももう少し雨も少ないような予報がどんどん変わってくる中での開催だったので、どちらの場合も準備をするときに迷いが生じるスタッフの様子も見られました。でも、最善を尽くせば、どんなことになろうともその努力に見合った結果が生まれるはずと思い、出会う子どもやおうちの方々、そして地域の方々にとって良いものとなるよう準備できたのは、「私」だけでなく、そこに同じ思いの仲間、「私たち」で準備ができたからだと思います。そして何よりYMCAの活動は、神様によって導かれたものである、という信念が、困難な時に迷い、弱っていく「私たち」を強めてくれたように深く感じています。私たち一人ひとは弱い存在ですが、それがつながり、そして見守ってくれている大きな存在がいる、という思いは、子どもたちにとっても、大きな力を与えてくれています。10月の行事を通じて、支えてくださった方々への感謝の念を覚え、そして、つながりの中でどんな時も前を向いて歩める「生きる力」の大切さを、改めて感じ、学びを与えてくれたことにも、感謝をいたします。

月主題	ありがとう	
月のねがい	乳児（0.1.2歳児）	幼児（3.4.5歳児）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深まりゆく秋の自然に気づく ・ 保育者や友だちと秋の実りを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを出し合ったり、相談して遊びを深める ・ 秋の実りを感謝し、収穫を喜ぶ ・ 社会や世界の出来事に関心を持ち、自分のできる事を考える

